Project A13	地域協働専攻　国際協働グループ **函館と演劇文化**
メンバー	［学　　生］　髙橋　伶/千葉　日向太/大場　空/叶野　滉人/佐藤　凱/佐藤　そら 遠藤　和葉/大坪　侑美佳/佐々木　美空/羽賀　えみり ［担当教員］　星野　立子

【背景】

我々の住む町、「函館」の演劇文化を調査した。

そんな演劇文化における課題として、「演劇の敷居が高い印象」や「若者世代の演劇に対する関心が薄い」こと、近年流行した新型コロナウイルスによる上演回数の減少など、地域の演劇文化の衰退が挙げられる。

このような調査・課題を踏まえて、演劇の魅力を発信しようと考えた。

【目的】

・地域と演劇の関係について知る
・演劇の魅力を学ぶ
・演劇に触れる
・演劇の魅力を発信する

【概要】

函館にある劇団の調査・演劇鑑賞によって、地域に根差す演劇の在り方、演劇の魅力について知る。また、函館市外にも対象を拡大することで、より深く演劇の魅力を学ぶ。授業内でのワークショップを通して「演じる側」としての演劇の魅力にも触れる。1年間の学びを通して、地域の演劇とその魅力を発信する。

【プロセスと成果】

前期は、まず函館演劇鑑賞会事務局長・鈴木順子さんにお話を伺い、地域での演劇文化の実情を知ることができた。そして、こまつ座の『きらめく星座』を観劇した。次に演劇体験講座「一陣の風」主宰・演劇ユニット41×46前主宰の館宗武さんにお話を伺い、演劇の地方格差について学んだ。また、函館市内の劇団調査は、身近にある劇団の実態について知る機会となった。札幌で劇団四季の『リトルマーメイド』を観劇し、規模の大きい劇団と小さい劇団の違いを実感した。さらに、札幌の劇団弦巻楽団代表の弦巻啓太さんのお話を伺い、また函館野外劇の観劇を行ない、地域の演劇について学びを深めた。

10月からは地域プロジェクトⅡが始動した。演劇を見るという活動では二つの公演を観劇した。一つ目は函館の演劇ユニット41×46と札幌の劇団fireworksによる公演『A room』だ。この公演では、函館の小さな劇場で行う演劇の良さを感じることができた。二つ目が一陣の風による『＃9110』だった。前期にお話を聞いた館さんが主宰する団体の公演で、役者が未経験の人が多い舞台であったが、一年での稽古での完成形を見て、演劇を始めるのは思っているよりも難しくはないのではないかと感じた。

そして、青森に遠征し、空間シアターアクセプの代表、田邉克彦さんにお話を伺った。青森での演劇文化や、函館との繋がりを学ぶことができた。

また、後期からは自分たちでシナリオを書いて実際に演じるワークショップもしばしば行った。このワークショップでは、演劇の制作過程や演じることの楽しさを学ぶことができた。

12月にはメンバー2名が東京へ遠征に行った。演劇は東京に一極集中しているという話が活動の中であったので、実際に行って調査することで、東京でどれだけ演劇活動が盛んかということを学ぶことができた。東京では演じる役者も、観る人も、劇場も多いということが身をもって感じることができた。

1月にはシンポジウムを開催した。地域の人や今までお話を伺った演劇関係者をお招きし、プロジェクトの学生の進行で演劇文化について考える機会を作った。そのシンポジウムの中でプロジェクトのメンバーによるワークショップを開催した。ワークショップの内容は、自分たちで設定したテーマに基づき作成した脚本により、実際に演技を行うというものだった。シンポジウムでは参加者の前で披露し、演劇は気軽に始められるというイメージをアピールすることができた。シンポジウムを通して演劇の魅力や函館に根付く文化を再認識することができた。また、地域の人たちと一緒に考えることで地域との繋がりも感じることができた。

1年間の地域プロジェクトを通した成果として、演劇に対する敷居の高さを低くすることが多少でもできたこと、そして、函館独自の演劇文化を学ぶことができ、演劇という文化を通して地域との繋がりを感じることができたことが挙げられる。

この3月中に、シンポジウムのために制作したシナリオや演劇関係者、プロジェクトのメンバーによるエッセイなどをまとめた冊子を刊行予定である。

シンポジウムの様子

青森・空間シアターアクセプのスタジオにて

【総括と反省・今後の課題】

前期は、主に演劇に関わる人の話を聴くことと、実際に演劇を観るという活動が行われた。演劇に対して様々な形で学び、演劇に対する考えや感じ方を個人で整理した。また、それを全体で共有することによって、ほかの人の視点や考えを学ぶことが出来た。前期の活動は概ね目標を達成することが出来た。

後期は、前期に学んだことや感じたことを活動に活かし、目標を達成することが出来た。前期の活動が演劇の歴史や内容について個人個人で学んでいたのに対して、後期は演劇を作る・演じる側として活動をしていたため、メンバーとより協力しながら活動をすることが出来た。また、シンポジウム含め自発的に発言・質問しているメンバーが多かった。

活動を通して議事録をとり、作成したスキットや脚本の共有や鑑賞後の感想共有を全体で行い、プロジェクトをより効果的なものにすることが出来た。

今後の課題として、演劇への知識・理解を深めること、学んだことを活かして脚本を書く側・演じる側としてもより活動的になることが挙げられる。また、演劇は敷居が高いというイメージを変えるためにどのような活動をするのか考えるなども挙げられる。

【地域からの評価】

以下、シンポジウムで得ることができた地域からの評価である。

・学生さん達の挑戦とっても良かったです。脚本のテーマ、発想がとてもおもしろく、今までにはない内容だったと思います。今日いらした田邉さんや館さんもきっとアイディアを少しいただこうかと思ってるかも知れません。（70代以上）

・とても興味深い内容でした。私は今回、函館に演劇を流行させるにはどうすれば良いか、のヒントをもらえればという興味で参加させていただきました。

座談の中で現状や課題などを知ることができましたし、熱い想いを持ってる方もいらっしゃることも知ることができましたので、非常に参考になりました。（30代）

・演劇を好きな人間が座談をしていて、心地よかったです。

学生の方々が演劇に対してどのようなイメージを持っているのか、また地プロを通してどう変容したのか、もっと知りたいです！　シンポジウム以外にどんな活動をしていたのか等も！（20代）

【その他】

年間スケジュール

・4月28日（月） 函館演劇鑑賞会事務局長・鈴木順子さんにお話を伺う

・5月9日（火）　こまつ座『きらめく星座』観劇、搬入・搬出作業手伝い

・5月26日（金） 演劇体験講座一陣の風主宰、演劇ユニット41×46全主宰の館宗武さんにお話を伺う

・5月末～7月半ば　函館市内の劇団調査

・6月24日（土） 劇団四季『リトルマーメイド』観劇

・7月7日（金） 札幌の劇団弦巻楽団代表・弦巻啓太さんにお話を伺う

・7月9日（日） 函館野外劇観劇

・11月12日（日） 青森にて空間シアターアクセプ代表・田邉克彦さんにお話を伺う

・12月9日（土）～12月10日（日） 市民演劇体験講座一陣の風 公演『＃９１１０』出演（1名）と観劇

・1月20日（土） 13:30-16:00 シンポジウム「燈—地域の灯火としての演劇—」開催（函館市芸術ホール・リハーサル室）

・2月3日（土） 成果発表会